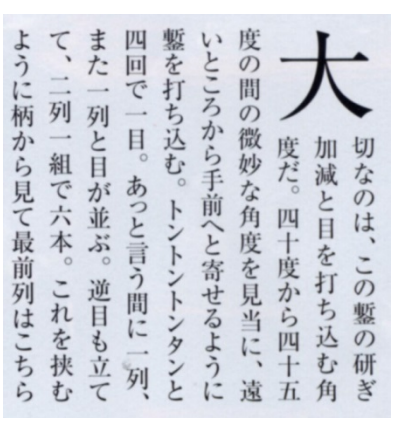
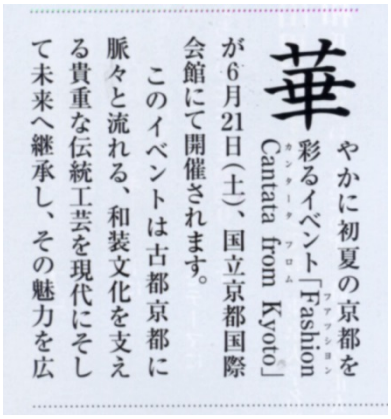
Japanese Initial Letter and Cut-in Handling

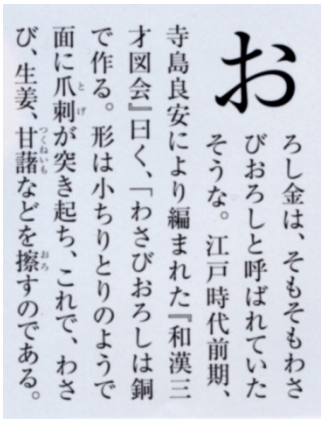
The following is a collection of various examples of how initial letters (glyph sequences) and then Cut-ins are handled, within Japanese publications.

Japanese (vertical)

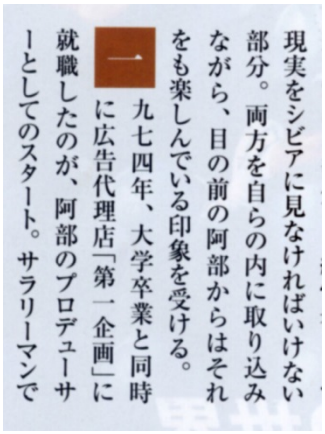

大切なのは、この鏨の研ぎ加減と目を打ち込む角度だ。四十度から四十五度の間の微妙な角度を見当に、遠いところから手前へと寄せるように鏨を打ち込む。トントントンタンと四回で一目。あっと言う間に一列、また一列と目が並ぶ。逆目も立てて、二列一組で六本。これを挟むように柄から見て最前列はこちら


華やかに初夏の京都を彩るイベント「Fashion Cantata from Kyoto」が6月21日(土)、国立京都国際会館にて開催されます。

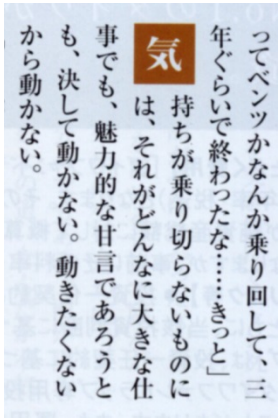
このイベントは古都京都に脈々と流れる、和装文化を支える貴重な伝統工芸を現代にそして未来へ継承し、その魅力を広


おろし金は、そもそもわさびおろしと呼ばれていたそうな。江戸時代前期、寺島良安により編まれた『和漢三才図会』曰く、「わさびおろしは銅で作る。形は小ちりとりのようで面に爪刺が突き起ち、これで、わさび、生姜、甘藷などを擦るのである。

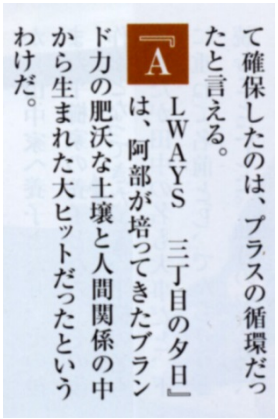
The above 3 examples show different initial letters spanning 3 lines of body text. What is most prominent is that the initial letters are all centered in the three line space. The first two letters are Chinese characters (Kanji) and the last is Japanese (hiragana). The second example also shows rotated English text below the initial letter.


現実をシビアに見なければいけない部分。両方を自らの内に取り込みながら、目の前の阿部からはそれをも楽しんでいる印象を受ける。

一九七四年、大学卒業と同時に広告代理店「第一企画」に就職したのが、阿部のプロデューサーとしてのスタート。サラリーマンで


ってベンツかなんか乗り回して、三年ぐらいで終わったな……きっと」

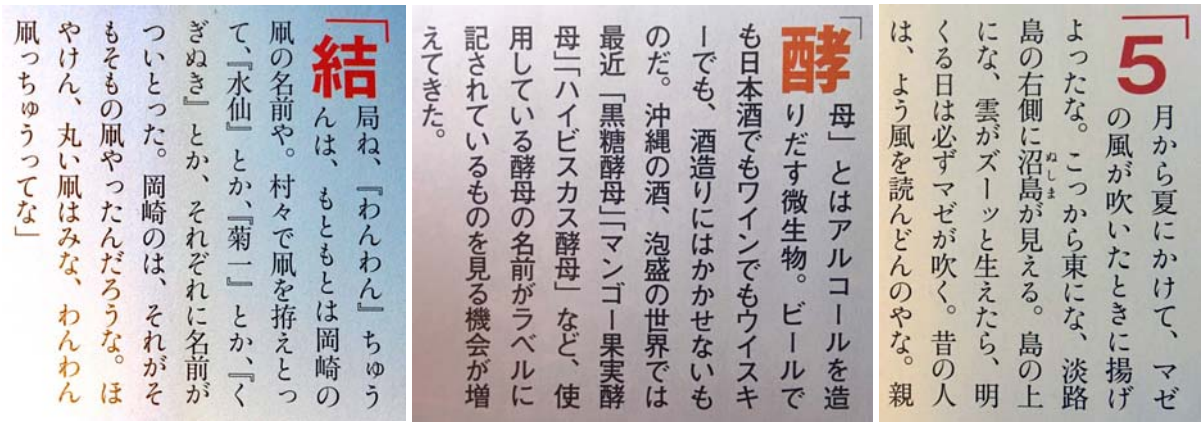
気持ちが乗り切らないものには、それがどんなに大きな仕事でも、魅力的な甘言であろうとも、決して動かない。動きたくないから動かない。


て確保したのは、プラスの循環だったと言える。

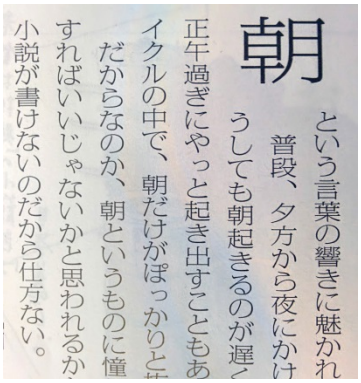
『ALWAYS 三丁目の夕日』は、阿部が培ってきたブランド力の肥沃な土壌と人間関係の中から生まれた大ヒットだったというわけだ。

In this set of examples, the initial letter (or letters) have a wine colored background. The first two examples have a single kanji letter. The third example has both an opening bracket (punctuation) and a latin letter “A” which begins the un-rotated vertical setting of “ALWAYS”. All these initial letters are centered on the space between two lines.

An additional set of examples was photographed by Masataka Yakura and have been copied (with some editing) from:
https://plus.google.com/photos/+MasatakaYakura/albums/6016251750721279313
These examples come from ANA WINGSPAN Issue 539 (an in-flight magazine for All Nipon Airways).

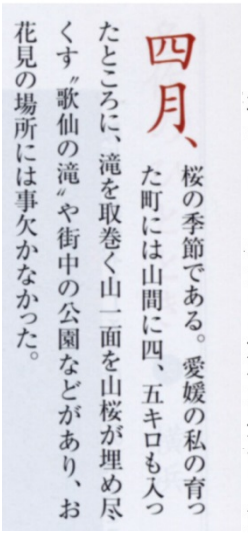


Note that the “Chinese Characters” (kanji) and the number “5” tend to be centered over the two lines it precedes and shortens, but the opening braket (red in the first and third instance and black in the middle) that precedes the character does not seem to be centered but seems to lie on the upper left corner of the EM box for the character.

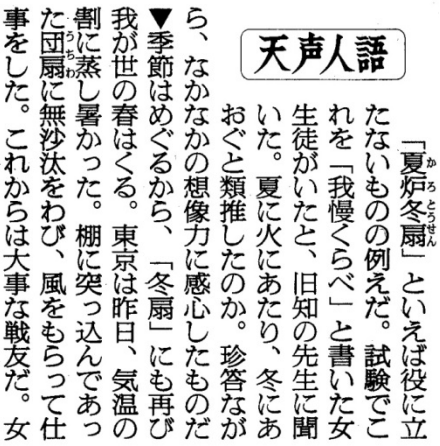


In this example, 3 lines (versus 2 in the above examples) are shortened and the kanji is clearly centered in the area that is freed up.

Cut-ins

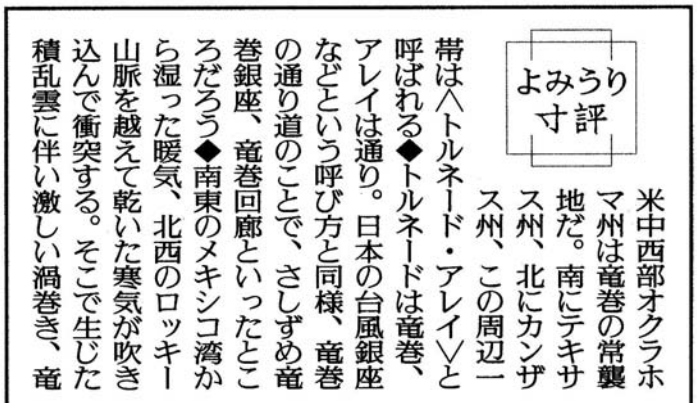


四月、桜の季節である。愛媛の私の育った町には山間に四、五キロも入ったところに、滝を取巻く山一面を山桜が埋め尽くす〝歌仙の滝〟や街中の公園などがあり、お花見の場所には事欠かなかった。



天声人語

「夏炉冬扇」といえば役に立たないものの例えだ。試験でこれを「我慢くらべ」と書いた女生徒がいたと、旧知の先生に聞いた。夏に火にあたり、冬にあおぐと類推したのか。珍答ながら、なかなかの想像力に感心したものだ▼季節はめぐるから、「冬扇」にも再び我が世の春はくる。東京は昨日、気温の割に蒸し暑かった。棚に突っ込んであった団扇に無沙汰をわび、風をもらって仕事をした。これからは大事な戦友だ。女



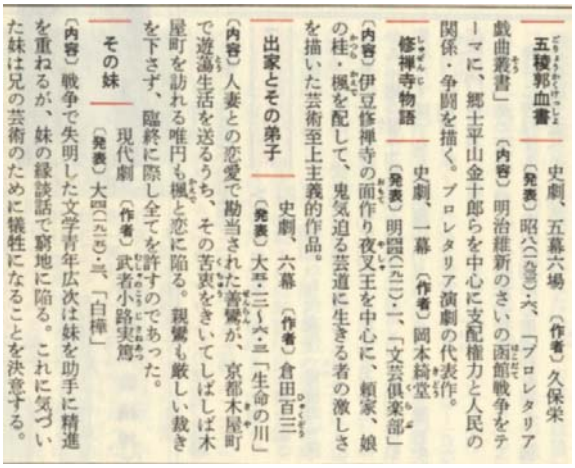
よみうり寸評

米中西部オクラホマ州は竜巻の常襲地だ。南にテキサス州、北にカンザス州、この周辺一帯は〈トルネード・アレイ〉と呼ばれる◆トルネードは竜巻、アレイは通り。日本の台風銀座などという呼び方と同様、竜巻の通り道のことで、さしずめ竜巻銀座、竜巻回廊といったところだろう◆南東のメキシコ湾から湿った暖気、北西のロッキー山脈を越えて乾いた寒気が吹き込んで衝突する。そこで生じた積乱雲に伴い激しい渦巻き、竜

These examples all have more than a single character and the latter two examples are both rotated with respect to the flow of the text (vertical) and have borders (simple rounded corners for the first and a complex border for the second).

Cut-ins are not exactly “initial-letters”, but as an inline that becomes “atomic” they share a similar behavior to initial-letters. That is they consume space (and, in Japanese vertical text they are centered in that space, at least horizontally).

Examples from a Japanese Pocket Encyclepedia:

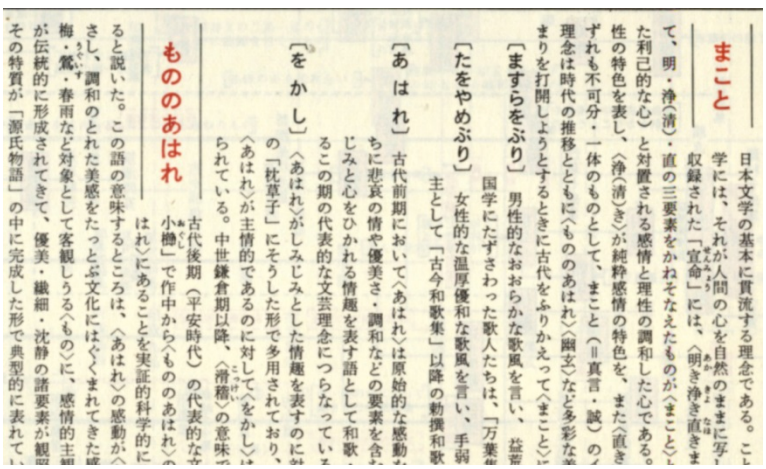


五稜郭血書 史劇、五幕六場 〔作者〕久保栄
〔発表〕昭八(一九三三)・六、「プロレタリア戯曲叢書」 〔内容〕明治維新のさいの函館戦争をテーマに、郷士平山金十郎らを中心に支配権力と人民の関係・争闘を描く。プロレタリア演劇の代表作。

修禅寺物語 史劇、一幕 〔作者〕岡本綺堂
〔発表〕明治四四(一九一一)・一、「文芸倶楽部」 〔内容〕伊豆修禅寺の面作り夜叉王を中心に、頼家、娘の桂・楓を配して、鬼気迫る芸道に生きる者の激しさを描いた芸術至上主義的作品。

出家とその弟子 史劇、六幕 〔作者〕倉田百三
〔発表〕大正三(一九一四)・六・三「生命の川」 〔内容〕人妻との恋愛で勘当された善鬯が、京都木屋町で遊蕩生活を送るうち、その苦衷をきいてしばしば木屋町を訪れる唯円も楓と恋に陥る。親鸞も厳しい裁きを下さず、臨終に際し全てを許すのであった。

その妹 現代劇 〔作者〕武者小路実篤
〔発表〕大四(一九一五)・三、「白樺」 〔内容〕戦争で失明した文学青年広次は妹を助手に精進を重ねるが、妹の縁談話で窮地に陥る。これに気づいた妹は兄の芸術のために犠牲になることを決意する。



まこと

日本文学の基本に貫流する理念である。こと学には、それが人間の心を自然のままに写し収録された「宣命」には、〈明き浄き直き〉て、明・浄(清)・直の三要素をかねそなえたものが〈まこと〉とした利己的な心)と対置される感情と理性の調和した心である。性の特色を表し、〈浄(清)き〉が純粋感情の特色を、また〈直き〉ずれも不可分一体のものとして、まこと(＝真言・誠)の理念は時代の推移とともに〈もののあはれ〉〈幽玄〉など多彩な美まりを打開しようとするときに古代をふりかえって〈まこと〉に

〔ますらをぶり〕 男性的なおおらかな歌風を言い、益荒国学にたずさわった歌人たちは、「万葉集」主として「古今和歌集」以降の勅撰和歌

〔たをやめぶり〕 女性的な温厚優和な歌風を言い、手弱

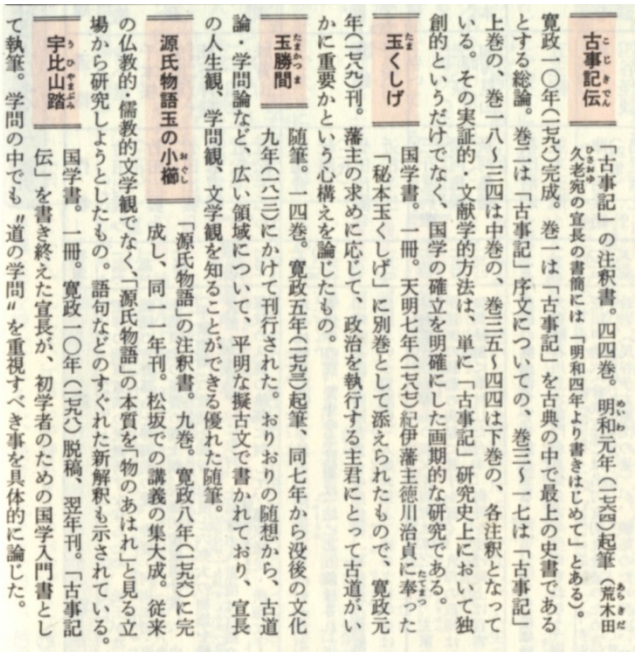
〔あはれ〕 古代前期において〈あはれ〉は原始的な感動ちに悲哀の情や優美さ・調和などの要素を含むじみと心をひかれる情趣を表す語として和歌・るこの期の代表的な文芸理念につらなっている

〔をかし〕 〈あはれ〉がしみじみとした情趣を表すのに対の「枕草子」にそうした形で多用されており、〈あはれ〉が主情的であるのに対して〈をかし〉は られている。中世鎌倉期以降、〈滑稽〉の意味で

もののあはれ

古代後期(平安時代)の代表的な文小櫛」で作中から〈もののあはれ〉の はれ〉にあることを実証的科学的に ると説いた。この語の意味するところは、〈あはれ〉の感動が〈さし、調和のとれた美感をたっぷり文化にはぐくまれてきた感梅・駕・春雨など対象として客観しうる〈もの〉に、感情的主観が伝統的に形成されてきて、優美・繊細・沈静の諸要素が観その特質が「源氏物語」の中に完成した形で典型的に表れて

Two more examples of “cut-in”s. The one on the right has a 3 column cut-in with borders (in black) on the sides of the inline box that forms the cut-in. The text of the paragraph that it heads follows immediately after the cut-in and it is indented by the amount of the cut-in. The example on the left has 2 column cut-ins with red borders on the top and bottom of the cut-in. Two paragraphs of one line each follow the cut-in. (See, for example, the leftmost cut-in.) These can be handles as inline blocks that are positioned as if they were an initial-letter.



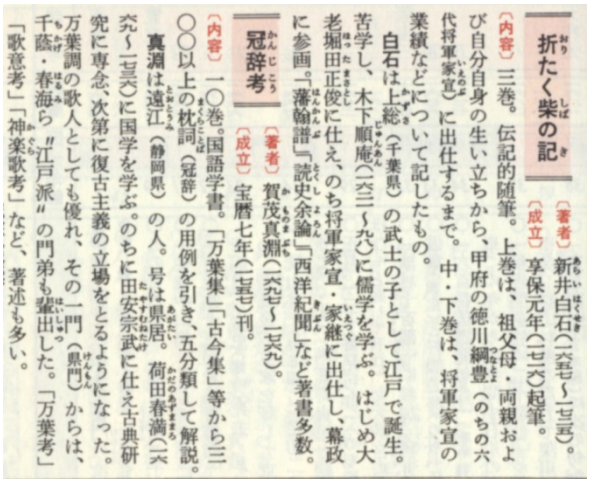
古事記伝
「古事記」の注釈書。四四巻。明和元年(一七六四)起筆(荒木田久老宛の宣長の書簡には「明和四年より書きはじめて」とある)。寛政一〇年(一七九八)完成。巻一は「古事記」を古典の中で最上の史書であるとする総論。巻二は「古事記」序文についての、巻三～一七は「古事記」上巻の、巻一八～三四は中巻の、巻三五～四四は下巻の、各注釈となっている。その実証的・文献学的方法は、単に「古事記」研究史上において独創的というだけでなく、国学の確立を明確にした画期的な研究である。

玉くしげ
国学書。一冊。天明七年(一七八七)紀伊藩主徳川治貞に奉った「秘本玉くしげ」に別巻として添えられたもので、寛政元年(一七八九)刊。藩主の求めに応じて、政治を執行する主君にとって古道がいかに重要かという心構えを論じたもの。

玉勝間
随筆。一四巻。寛政五年(一七九三)起筆、同七年から没後の文化九年(一八一二)にかけて刊行された。おりおりの随想から、古道論・学問論など、広い領域について、平明な擬古文で書かれており、宣長の人生観、学問観、文学観を知ることができる優れた随筆。

源氏物語玉の小櫛
「源氏物語」の注釈書。九巻。寛政八年(一七九六)に完成し、同一一年刊。松坂での講義の集大成。従来の仏教的・儒教的文学観でなく、「源氏物語」の本質を「物のあはれ」と見る立場から研究しようとしたもの。語句などのすぐれた新解釈も示されている。

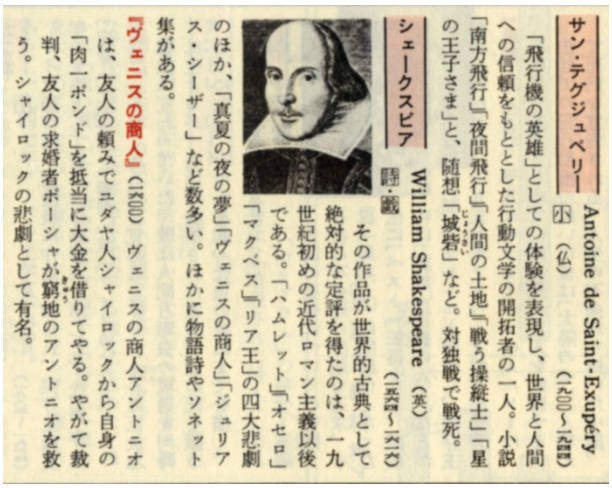
宇比山踏
国学書。一冊。寛政一〇年(一七九八)脱稿、翌年刊。「古事記伝」を書き終えた宣長が、初学者のための国学入門書として執筆。学問の中でも〝道の学問〟を重視すべき事を具体的に論じた。



折たく柴の記
〔著者〕新井白石(一六五七～一七二五)。
〔成立〕享保元年(一七一六)起筆。
〔内容〕三巻。伝記的随筆。上巻は、祖父母・両親および自分自身の生い立ちから、甲府の徳川綱豊(のちの六代将軍家宣)に出仕するまで。中・下巻は、将軍家宣の業績などについて記したもの。
白石は上総(千葉県)の武士の子として江戸で誕生。苦学し、木下順庵(一六二三～九八)に儒学を学ぶ。はじめ大老堀田正俊に仕え、のち将軍家宣・家継に出仕し、幕政に参画。「藩翰譜」「読史余論」「西洋紀聞」など著書多数。

冠辞考
〔著者〕賀茂真淵(一六九七～一七六九)。
〔成立〕宝暦七年(一七五七)刊。
〔内容〕一〇巻。国語学書。「万葉集」「古今集」等から三〇〇以上の枕詞(冠辞)の用例を引き、五分類して解説。
真淵は遠江(静岡県)の人。号は県居。荷田春満(一六六九～一七三六)に国学を学ぶ。のちに田安宗武に仕え古典研究に専念、次第に復古主義の立場をとるようになった。万葉調の歌人としても優れ、その一門(県門)からは、千蔭・春海ら〝江戸派〟の門弟も輩出した。「万葉考」「歌意考」「神楽歌考」など、著述も多い。

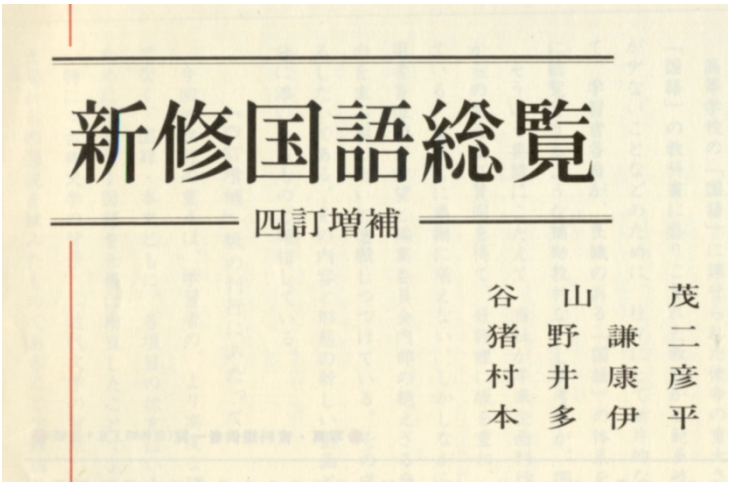
In these two examples, the background is colored (pink) and there is a top and bottom border. Note that the positioning of the base text is not affected by the presence of ruby annotations . The base text is centered, horizaontally, in the inline block box.



サン・テグジュペリ
Antoine de Saint-Exupéry (仏) (一九〇〇～四四)
「飛行機の英雄」としての体験を表現し、世界と人間への信頼をもととした行動文学の開拓者の一人。小説「南方飛行」「夜間飛行」「人間の土地」「戦う操縦士」「星の王子さま」と、随想「城砦」など。対独戦で戦死。

シェークスピア
William Shakespeare (英) (一五六四～一六一六)
詩・戯
その作品が世界的古典として絶対的な定評を得たのは、一九世紀初めの近代ロマン主義以後である。「ハムレット」「オセロ」「マクベス」「リア王」の四大悲劇のほか、「真夏の夜の夢」「ヴェニスの商人」「ジュリアス・シーザー」など数多い。ほかに物語詩やソネット集がある。

『ヴェニスの商人』(一六〇〇)
ヴェニスの商人アントニオは、友人の頼みでユダヤ人シャイロックから自身の「肉一ポンド」を抵当に大金を借りてやる。やがて裁判、友人の求婚者ポーシャが窮地のアントニオを救う。シャイロックの悲劇として有名。



Another example in which the cut-in inline block box has a (pink) background and (black) side borders. In this example, as above, the cut-in is followed by two paragraphs of a single line, but in the second of these lines (from the right) part of the line is top justified (to the indented edge) and the remainder is bottom justfied (to the end of the line). The final example is the title of the Japanese Pocket Encyclepedia.